

第3章 子どもと保護者の携帯電話・パソコンに関するアンケートの実施

第1節 調査の目的

第2章で述べてきたように、子どもたちを取り巻くインターネットの環境は、非常に身近なものになってきている。子どもたち、特に中学生にとって、携帯電話はあこがれの道具であり、手にした者は、二度と手放せないグッズとなる。携帯電話を持った子どもは幸せそうである。何が幸せなのか。心の中の大きく占めるものはメールであろう。時や場所を選ばず、メールで何気ない言葉のやり取りをする。これが彼らにとって、心が結びついていることであり、幸せを感じるのである。

パソコンについても、似たようなことが伺える。子どもは買う時には、「勉強に使うから。」とか「みんなが持っているから。」などと言う。親も興味がないわけではないし、「まあ、これからの時代は家にパソコンがあってもいいだろう。」ということで、売り出しのちらしをみて、最新のセットを買うことになる。

今は、パソコンを買うと、何から何までやってくれるサービスがあるという。家に来て線をつないでくれ、インターネット回線の手配をしてくれ、プロバイダーの設定までしてくれと言う。すごい商売だと思う。中には、筆者に頼んでくる方もいる。インターネットにかかる費用を教え、プロバイダーを選び、メールアドレスを決め、パソコンを設定し、めでたく開通である。パソコンを買うと、ほとんどの場合、3ヶ月くらい有効のウィルス対策ソフトが付いてくる。「3ヶ月たったら、必ず更新して下さい。」とお願いして来る。

こんなボランティアをやって数年経つ。学校のパソコンのメンテナンスは、日常のこととして、あちらこちらから、「プリンターが言うことを効かない。」、「ネットにつながらない。」、「年賀状ソフトが言うことを効かない。」、「ワイヤレスでネットワークにしたいんだけど。」、「インターネットをやりたいんだけど。」、「パソコンどんなの勝ったらいいですか。」など、SOSが筆者のところに来る。パソコンにととても詳しい方から、「佐々木さん、何とか助けてほしい。」というのは、あまり足が向かない。商売でやっているわけではなく、そんなに詳しいわけでない。でも頼まれたらいやとは言わない。こういう方は、中をぐじゃぐじゃにいじって、どうしようもなく連絡してくる。どこをどういじったかわからないところをもとのところまで戻さなければならない。そうやって行って最終的には、何とかしてくる。そうでない方は、比較的気持ちが楽である。直して、その原因を知らせて、「こういうふうにしたから、こうなりましたよ。」ってことで解決である。

筆者が今まで携わってきた何十軒ものそういった訪問からわかることは、保護者は、さほど、パソコンには詳しくない。仕事でバリバリ使っている方も、仕事のソフトについては、使えるけれども、仕事以外のところでは、よくわからないというのが現状である。ましてや、子どもたちが、ネットでどんなことをやっているかもわかっていない状況というところも多かった。それに比べて、子どもたちは、そのネットワークで、面白いホームページや掲示板、チャット、ゲームなどの情報交換をして、パソコン操作の技能もどんどん

向上していているのである。

我が子たちも、ネット使いで、上の大学生は、ネットワークやプログラミングの研究をしている。その下の女の子二人も、メールやホームページ作り、またネットゲームなど三昧である。筆者の家庭では、子どもたちが保育所に通っている頃から、意図的にパソコンを使わせた。子どもたちが学校に上がる前に描いたハイパーキューブの絵もまだ、どこかのフロッピーに入っているはずである。今では、「お父さん、プリンターがつかないよ。」「ネットの調子が悪いよ。」などといったトラブル解決は、まだ筆者に軍配があがりそうであるが、キーボードタッチのすさまじい速さや、デザイン性のあるホームページ作りなどは、到底筆者のかなわないレベルにまで達している。自分の子どもを通していても、子どもたちのコンピュータの操作技能習得の速さ、使いこなしはさすがというほかはない。

我が家も例も含めて、子どもたちのパソコンの使いこなしは、親の考えている以上のものがある。

ここで日本PTA全国協議会の平成16年度「家庭環境におけるテレビメディア調査/青少年とインターネットなどに関する調査」に目を向けてみよう。この調査は、平成16年の末に、全国の小学校5年生、中学校2年生及びその保護者、それぞれ2000人ほどを対象に行った調査である。

その結果、小学生で携帯電話の所持率が10%、中学生で35%という結果が出た。学校への携帯電話の持ち込みについては小中学生のいずれの親も80%近くが持ち込みに反対をしている。パソコンの所有の有無では小中学生の80%が所有している。また、携帯電話、パソコンの所有率については、年を追うごとに確実に上昇している。結果報告(概要)

一方、有害サイトに対する意識や出会い系サイト等の利用状況(中学生のみが調査対象)では、出会い系サイトの利用経験が、1.8%、そこを親に全く話していないのが60%となっている。

さらに、携帯電話の家庭内ルールでは、決まりがあるのが50%程度、インターネットの家庭内ルールで、決まりがあるのが61%(小学生)、75%(中学生)となっている。

以下、3ページに渡って、同じ調査の一部を円グラフで表す。

図 3-1-1 小学5年生の携帯電話保有状況

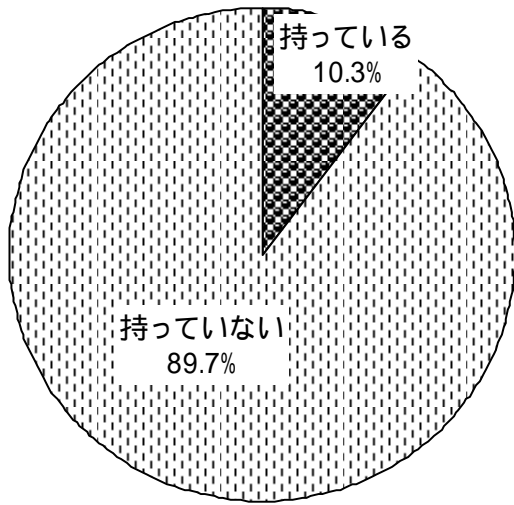


図 3-1-2 中学2年生の携帯電話保有状況

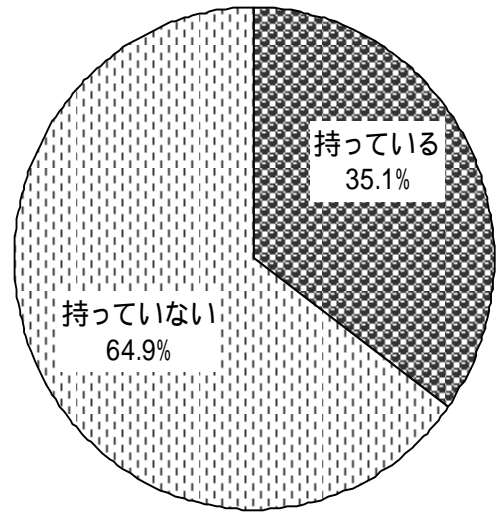


図 3-1-3 携帯電話・PHSを学校へ持ち込むことについての保護者の賛否 (小学5年生)

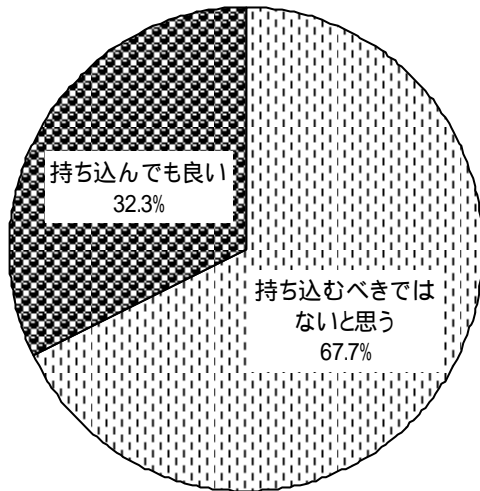


図 3-1-4 携帯電話・PHSを学校へ持ち込むことについての保護者の賛否 (中学2年生)

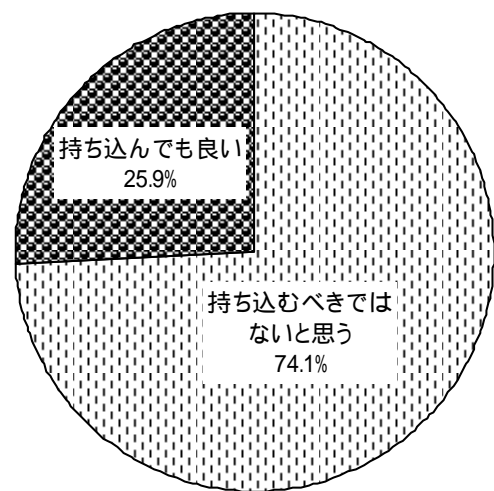


図 3-1-5 自宅のパソコンの有無 (小学5年生)

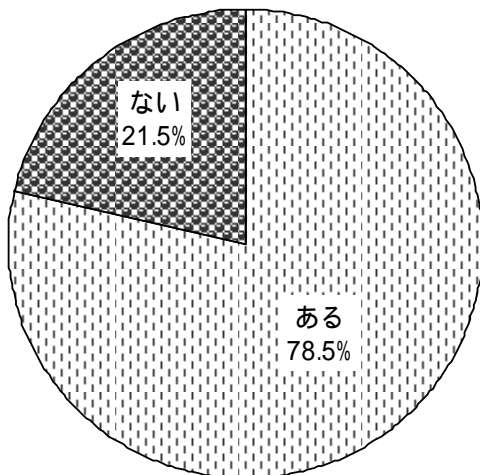


図 3-1-6 自宅のパソコンの有無 (中学2年生)

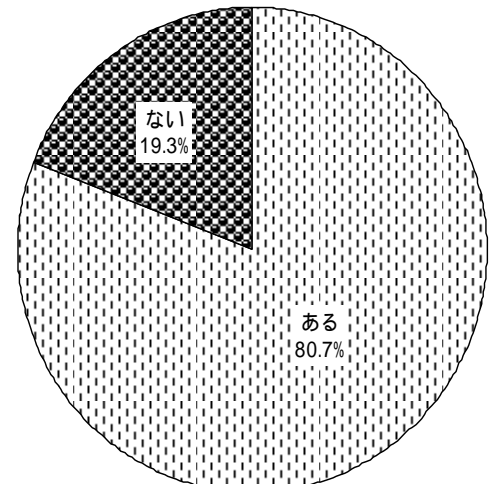


図 3-1-7
小学5年生のインターネット利用頻度

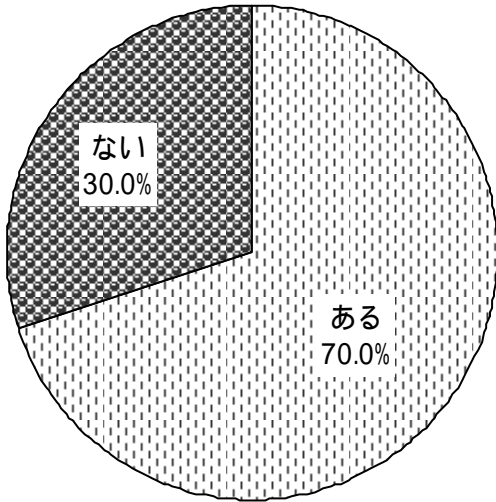


図 3-1-8
中学2年生のインターネット利用頻度

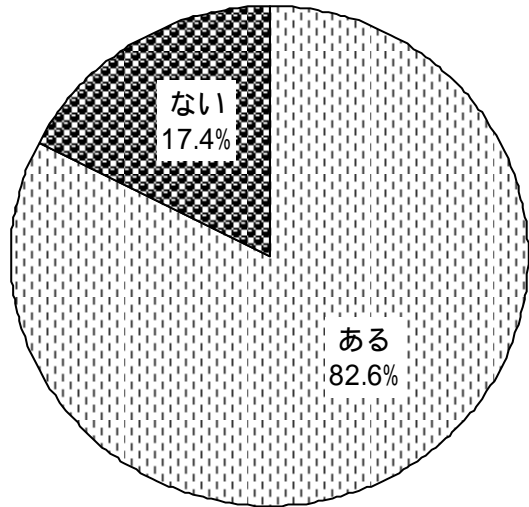


図 3-1-9
小学5年生の電子メール利用経験

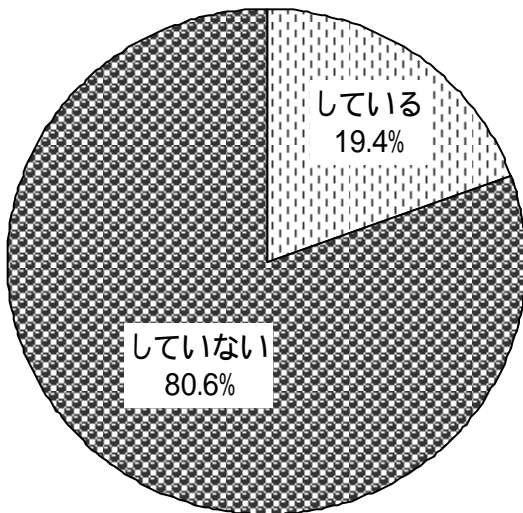


図 3-1-10
中学2年生の電子メール利用経験

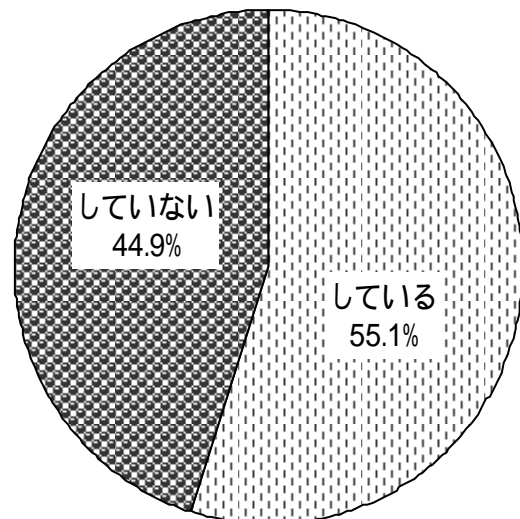


図 3-1-11
中学2年生の出会い系サイト利用経験

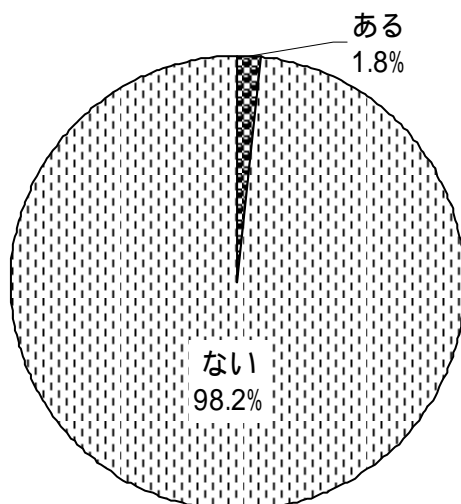


図 3-1-12

ネット上での物のやり取りを親に話しているか(中学2年生)

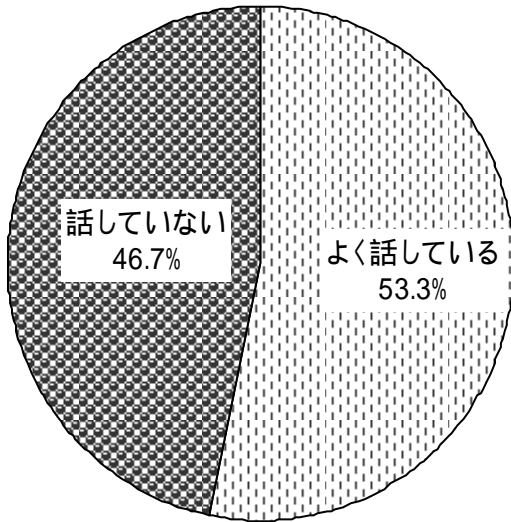


図 3-1-13

出会い系サイトを利用していることを親に話したか(中学2年生)

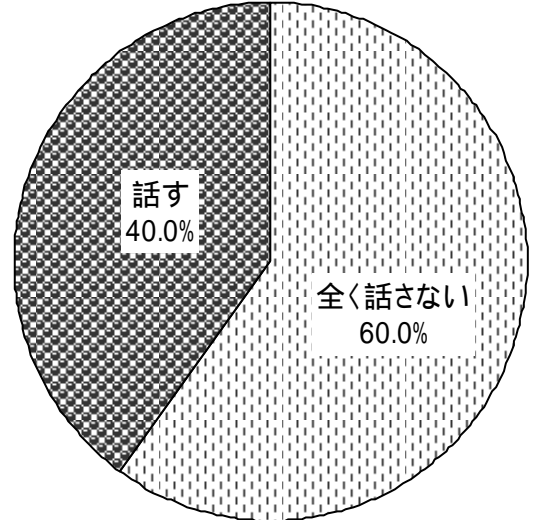


図 3-1-14

携帯電話・PHSに関する家庭内のルールについて(小学5年生)

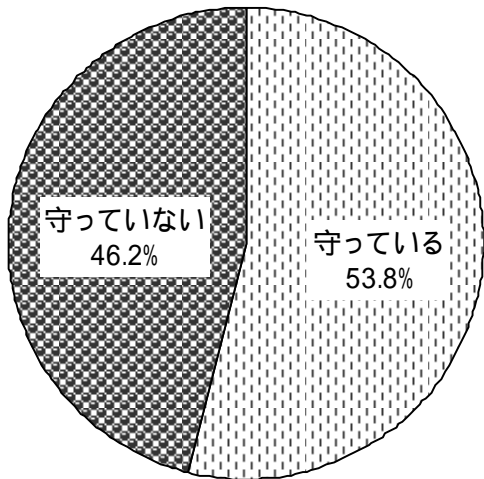


図 3-1-15

携帯電話・PHSに関する家庭内のルールについて(中学2年生)

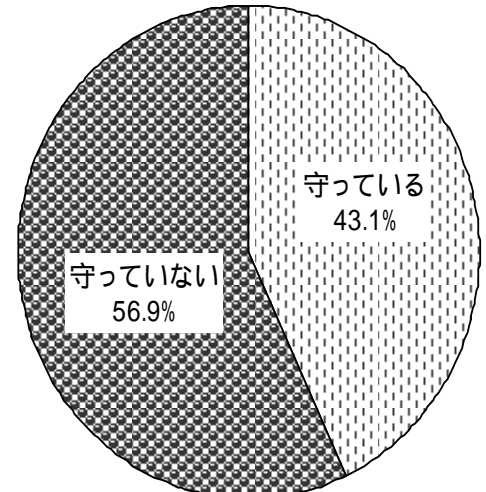


図 3-1-16

インターネット利用に関して親が決めたルールについて(小学5年生)

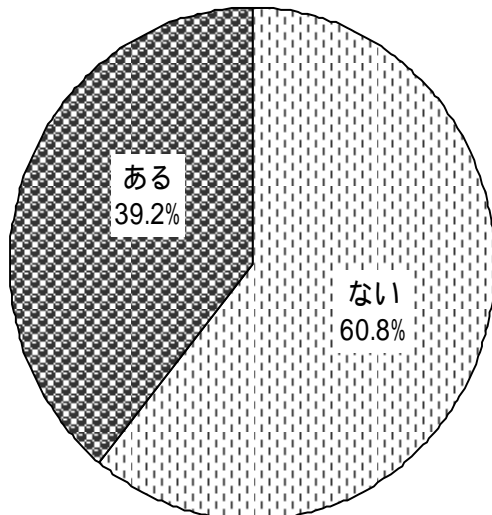
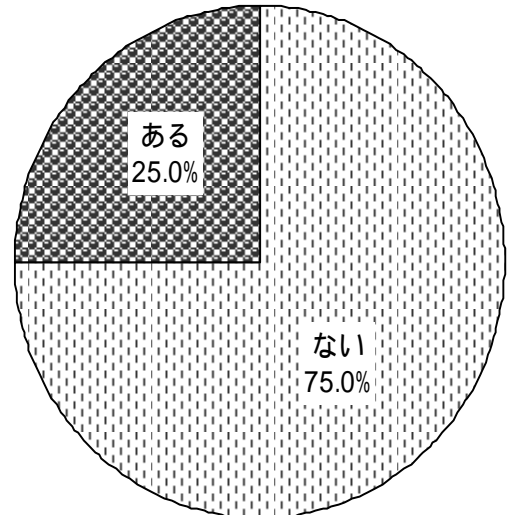


図 3-1-17

インターネット利用に関して親が決めたルールについて(中学2年生)



私たちの暮らす道南地域の実態は、どうか。筆者は、この地域の特徴的なものが出てくるか調査を行ってみようという気持ちになった。携帯電話は、現任校でも卒業と同時に与えている場合もある。パソコンは、このデータにあるほど、普及していないのではないか。有害サイトなどの利用はどうなっているのだろうか。筆者は疑問を解明したい項目を中心に質問紙を作っていた。

そして、調査結果をもとに、この地域にあった情報モラル教育はどうあるべきかという方向性を出し、渡島の情報教育の発展に帰することを目的とした。